

# 学生協ニュース

No. 6

東北大学学生生活協議会広報委員会

## 「乱入」事件のその後 — 6月末 電気料問題の現状 —

去る6月16日に、「中核」「日就」などとしたヘルメットやサングラスに覆面姿の集団約30名が法学部教授会に乱入した事件について、学生生活協議会(学生協)は東北大学学生寮自治会連合(寮連)は見解を示すべきだとしました(学生協ニュースNo. 5)。しかし、7月1日現在、寮連はこの無法行為についての見解を一切示していません。

### ○ ヘルメット・覆面集団の暴挙は初めてではありません

ヘルメットに「中核」「日就」などと書かれてあったこと以外には、彼らの所属を明らかにするようなものはありませんでした。ただ、自らの姿をかくして暴力的な行動をするというこのパターンは、過去に何度か繰り返されています。例えば、昨年12月24日、白昼公然と覆面姿のもの30数名が片平キャンパスの事務局庁舎総長室に乱入しています(学生協だよりNo. 7)。彼らの主張や現場に残されたピラなどから判断して、一部寮生が関与していたことはほぼ間違いないと思われます。

学生協は、これらの無法行為が発生するたびに、寮連および有朋寮委員会、日就寮委員会に対して、組織としての関与の有無を問いただしてきましたが、寮連・2寮委員会ともにいずれの件についても沈黙を守り、肯定も否定もしていません。これまでのところ、これらの事件については、自らの関与を認めた個人や組織はまったく現れませんでした。反社会的で許されるような行為ではないことを、誰よりも関与した本人たちがはっきりと自覚していたからでしょう。

### 寮生共闘が「法学部教授会への乱入」を認め正当化しようとしています

ところが、このたびの法学部教授会乱入事件に関しては、事情が違います。「寮生共闘」を名乗る組織が、「我々は6月16日、法学部教授会への弾劾行動を戦闘的に貫徹した。…寮生殺しに手を染めるすべての教授どもに対して、今後も同様の制裁が下されるであろう」と自らの関与を認めればかりか、乱入事件の正当化を試み、今後も同様の行動をとるとさえ宣言するピラを出しています。

### 寮生共闘は「団交要求署名」も訴えています

この同じピラで「寮生共闘」は、「団交要求の全学3000名署名の早期達成を」呼びかけています。彼らの署名活動は寮連が関わるものと同一のものと判断できますが、寮連によればすでに1200名が署名したといっています。この数字が正確であるとして、1200名の人々の多くは心から、話し合いによる早期の電気料問題の解決を信じて署名に応じたはずで、署名に応じた1200名、さらには冷静な話し合いで問題を解決すべきだと感じている学内の多数の人々に、この署名活動にはこのような不法行為を平然と行う組織が関わっていることを、あらためて考えてもらいたいと思います。

また寮連は、このような無法集団＝「寮生共闘」と関係しているのか否か、ただちに明らかにすべきでしょう。

### ◎ 「団交」で理性的な話し合いは実現するでしょうか

すでにお伝えしたように寮連は、『「電気料負担区分是正の白紙撤回」要求を撤回する、「団交」で合意すれば是正分電気料を支払う用意がある』と声明しているようです(学生協ニュースNo. 5)。しかし、一方で寮連が「法学部教授会乱入」について、例えば関与を全面的に否定するなどの見解を示さず、また今回の「乱入」を認め正当化を試みる「寮生共闘」のピラを非難してもいい以上、最悪の場合、寮連執行部自身が、「乱入」の当事者である可能性さえ否定できません。少なくとも、一部ではあっても有朋・日就2寮の寮生が「乱入」に直接関わっていたとすれば、寮連が主張する「団交」が、正常で理性的な話し合いの場となるとは思えません。過去の学生部長会見同様、長時間にわたる拘束・暴言・怒号・強要が繰り返されるのは明らかです。

このような「団交」のあり方を大学が認めないことはいうまでもありません。寮連にはすでに「副総長制下における会見の在り方」に則った代表者会見の申請書を、学寮専門委員会を通じて送付してあります。問題解決に近づくためには1日も早く、代表者会見を申請するよう寮連に望みます。